

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103151
法人名	特定非営利活動法人
事業所名	グループホーム 風花
所在地	松山市来住町1057-1
自己評価作成日	平成21年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年 7月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\*理念・運営方針に基づき、ご利用者お一人お一人が「その人らしく、その人として」暮らせる様、その思い(喜び・悲しみ・怒り・不安等)をしっかり受け止めれる、また気付く事が出来る目や心を養う職員の研修や勉強会を定期的に行っている。  
 \*事業所内他グループホームと連携・協力しながら各種行事を地域の方々も招き行い交流を図りながら地域に根ざしたグループホーム作りに努めている。  
 \*広くゆったりとしたホーム内で、ご利用者お一人お一人が思い思いの場所(ユニット花・畑・他事業所)で過ごしたり、職員以外の人達と関われる事が出来る。  
 \*ボランティア・研修生・実習生の受け入れを適時行い、ホームが孤立したり、閉鎖的にならぬ様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中で利用者の暮らしを支えるために、年に1回ユニット毎に全職員で理念の見直しを行っている。管理者及び職員は理念を共有し実践している。食事は利用者の楽しみの1つで、天然だしにこだわり、畑で採れた新鮮な野菜を使って調理し、調理方法も工夫している。また職員は段階に応じて外部の研修に参加したり、ケア向上委員会等で勉強会を行い、一人ひとりが質の向上に努めている。地域との交流も出来ており、町内会に加入し地域の行事に参加したり、またホームの行事にも参加してもらっている。地域の清掃活動にも参加し地域の一人としての役割も担っている。保育園児との交流や多くのボランティアの訪問があり、利用者も日々の暮らしを楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム風花

(ユニット名) 風

記入者(管理者)  
氏名 長岡 すみ子

評価完了日 21年 6月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 一年に一度は必ず理念の振り返りを職員全員で行い、ご利用者主体の生活を支援出来る理念を作りあげている。また地域の中でより生活が豊かになる様配慮している。日々のケアの中で実践できる様、又確認の為読み上げしている。</p> <p>(外部評価) 利用者が地域の中で安心して暮らせるように、毎年全職員で今までの理念を見直し、話し合いを行って、それぞれユニット毎の理念を作っている。理念は具体的でわかりやすい言葉で表されている。職員は毎日言葉に出したり、黙読したりして管理者と理念を共有し、利用者の生活支援に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のお祭りや運動会等の催し物に参加している。また地域の老人会にご利用者が入会し、交流を深めている。地域清掃活動等にも積極的に参加している。</p> <p>(外部評価) ホームは町内会に入り、地域の行事(祭り、運動会、老人会、清掃活動等)に参加したり、ホームの行事にも参加してもらい相互関係が成り立っている。近くの保育園児との交流やボランティアの訪問もあり、利用者と地域の方の交流は深まってきている。また有償ボランティアの方に畑や日常生活を手伝ってもらっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域運営推進会議を通して、地域の役員や地域包括支援センターの職員とも協力し、必要に応じて相談にのっている。認知症への理解を深めてもらう為、地域に出向き講演など行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通して地域の役員や地域包括支援センターの職員と交流を深めながら、評価への取り組みなど報告を行う等、サービス向上に生かしている。	
			(外部評価) 会議には、利用者や家族、地域住民（町内会会長、民生委員、老人会、保育園等）や市の職員等多くの参加があり、ホームの報告ばかりでなく、それぞれの方の立場から意見や要望などを聞いて、活発な意見交換が行われている。具体的な課題について話し合いを行い、サービスの向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域のケアセミナーに参加したり、ホームの行事の時は市町村担当者に相談したり、いろんな場面で話し合う機会を設けている。	
			(外部評価) 地域包括支援センター主催のグループホームの交流会や、セミナー等に参加し、市職員の研修の受け入れも行ってきている。また市および包括センター職員と運営会議を通して話しやすい関係づくりができており、具体的な相談に対応してもらうなど連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の具体例をミーティングであげご利用者の精神的苦痛を考えたり、鍵をかけないで安全に過ごす為にはどうしたらいいのか等いつも考えながらケアしている。またご家族には運営推進会議や家族会で鍵をかけないで暮らす事のリスク等を説明している。	
			(外部評価) 日中は玄関及び居間等に施錠しないで、利用者の安全を確保しながら抑圧感のない自由な暮らしを支えている。玄関はセンサーで対応している。身体拘束の弊害などについて管理者及び職員は理解しており、会議等でも勉強会を行い、身体拘束をしないケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止については繰り返しミーティングにて職員に伝え、防止とご利用者の尊厳遵守について学んでいる。また、丁寧な対応・話し方についてはコンプライアンスルールを作り、常に意識出来るよう事務所の壁に掲示している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域包括支援センターの実施するセミナーで学んだ事を職員にミーティングで伝える。また実際に後見人制度を活用する利用者がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行うと共にご利用者、ご家族の不安な気持ちを真摯に聴き、同調し、初期の信頼関係の構築に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 常日頃からご利用者の思いに耳を傾ける機会を多く持っている。家族会や地域運営推進会議等が出た意見、苦情があれば対応し、早急な解決を心がけている。またご家族にも伝え、時と場合によって協力を仰いでいる。 (外部評価) 運営推進会議や家族会等、利用者や家族から意見を出してもらう機会を作っている。また日々の暮らしの中で利用者の思いを聞き出し、家族の訪問時にも要望などを聞いている。出された意見等は職員で話し合いケアに反映させている。重要事項説明書に、ホーム内及び外部の苦情申立先を記載している。	今までホーム側が開催していた家族会を、今年から家族が中心となって開くため、家族からの要望や意見が多く出されることが予測され、サービスに反映させる具体的な取り組みが期待される。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回から二回実施するミーティング・勉強会・面談の際に職員の意見を聞く機会を設けご利用者の為に何が出来るのか話し合っている。しかし、運営に反映できる意見が出てくるまでに至っていない。 (外部評価) ミーティングや勉強会、管理者との面談等で、日頃から職員からの要望や意見を十分聞き出すよう心がけている。出された意見等については、話し合って運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課表の記入を定期的実施し、運営者との面談も定期、また必要に応じて行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の勤務年数やそのレベルに応じ社内外の研修に参加出来る機会を設けている。また今年度よりユニットでの勉強会を開催し、職員一人一人のスキルアップにあたっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種セミナーや関連ホームとの相互研修の中で同業者との交流を図っているが職員全員が参加出来ていない。実習・研修・訪問は随時受け入れを行っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人が無理な場合はご家族より聞き取りを行い安心、信頼して入所出来るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時には必ず自宅へ訪問し面談を行い、どんな小さな要望や悩みにも相談にのるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期にはまずご利用者の状態の把握に努める共に、各担当者（ケアマネジャー）とも相談しながら一番適切に必要な支援の見極めを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者の傍で不安、不満を聞き、思いのいろいろな側面（悲しい、しんどい、嬉しい）に寄り添える、また共感出来るように心がけている。また本人の生活歴等から職員も学ぶ場面を持つようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の不安、不満を聞く姿勢を大切にし、少しでも相手の気持ちや立場になって共感するようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 初期段階ではなるべくご家族に來所して頂き、不安の払拭をし、徐々に慣れて頂けるようこまめに声をかけたり、傍に寄り添うようにしている。また入居時に生活歴を書いて頂き、生まれた時から今に至るまでの情報を提供してもらい安心して暮らせる環境が整うよう配慮している。 (外部評価) 併設のデイサービスを利用している友人が訪ねてきて会話を楽しんだり、ホームからデイサービスに遊びに行くこともある。また馴染みの美容院や神社等のお参りに行ったり、家族の訪問も多いことから一緒に食事したり外出したりするなど、職員が一人ひとりのこれまでの暮らしの把握に努め、生活習慣を尊重して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常生活のいろいろな場面からご利用者同士の関係性を把握し、時に助け合ったり、支えあったりする機会を作り見守っている。場合によっては職員が仲立ちをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要とする家族・ご利用者が今現在までにいない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご利用者お一人お一人の状態別にセンター方式の様式を使い分け、思いや意向の把握に努めている。また聞き取りが可能なご利用者には、希望や要望を日常の会話から聞き取りをしている。	
			(外部評価) 日々の暮らしの中で本人に思いや過ごし方の希望を聞いたり、行動や表情からも真意を推し測っている。家族の訪問時には、利用者の希望や家族の願いなど情報を得るようにしている。センター方式を利用して積極的な把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の面接に聞き取りを行う。またその後も本人、ご家族、介護支援専門員から随時必要な事項を尋ねたり、話を聞く機会を作り把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各記録に現状の記入をし、また職員間でご利用者お一人お一人の状態等の申し送りを行っている。職員がそれぞれに気づいた事や感じた事もご利用者本位に記録に残し、現状の把握に努めると共に、今後のケアに行かせる工夫も行っている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) センター方式の書式を活用し、ご利用者の思いに合った、ご利用者本位の介護計画の作成をしている。計画時にご家族の意見を聞き取れていない。	
			(外部評価) 本人がどう暮らしたいのかを第一に考えて、思いを聞いたり家族の希望も採り入れて、関係者が話し合っってその人に合った具体的な介護計画を作成している。定期的な見直しや評価のほか、家族等の要望や状況の変化に応じて介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 気づきやケアの工夫が記載された記録用紙に変更し、ご利用者の様子や思いをより深く探るように心がけている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご利用者の状況に応じ福祉用具を購入したり、受診したり、ご家族の結婚式参加の為の送迎をしたりと、柔軟に対応出来ている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域運営推進会議をきっかけに保育園や民生委員等と協力し地域行事に参加したり、ボランティアの方が日舞を踊りに来てくれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の意向を第一に優先し、かかりつけ医に月 二回往診に来てもらっている。また24時間体制で連 携をとり、緊急の場合も対応してもらっている。ま た、ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっ ている。  (外部評価) 協力医療機関がかかりつけ医となっている利用者が多 いが、本人及び家族が希望する医療機関で受診して もらう場合もある。2週間に1回かかりつけ医の往診が あり、管理者及び職員は利用者の情報をよく把握して いる。また緊急の場合には24時間の対応ができるよ うな体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 月四回ほどの看護師の往診がありご利用者の健康 チェックを行っている。職員も看護師と気軽に相談で きる関係にある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した際は職員がこまめに訪院し状態の確認を行 い、主治医からも病状や経過についての聞き取りを 行っている。退院に向け必要な関係者とカンファレン スを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時、看取りにおける方針を話し同意してもらいなが ら、重度化した時は本人・家族・医師・看護師と話 し合い方針を決めていく。  (外部評価) ホームとして、看取りの必要性が生じた場合における 対応指針を定め、入居時に本人及び家族に説明を行 いつている。まだホームでの看取りの経験はないが、 本人や家族が希望しホームでの看取りが出来る状態 であれば、受け入れは可能で、日頃から医療機関と話し 合いをしている。	利用者が、終末期をどう過ごしたいかが大切であり、 医療との連携や家族と職員がチームで支援する必要が ある。他の利用者への影響も含め、職員の終末期にお けるケアの質の向上を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時にはマニュアルに従い直ちに上司、またかかりつけ医に連絡し、然るべき処置を施す体制にしている。訓練に関しては定期的に行っていない。しかし、研修や勉強会にて行うよう計画をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、年二回訓練を行っている。新人スタッフが入職した際に伝えている。また、地域運営推進会議時に応援体制に関する話し合いは持っているものの、避難訓練等を地域の人達と共に行っていない。非常食の準備は出来ている。  (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施し防災マニュアルも作成している。地域に協力をお願い、地域の自主防災会の連絡網もできているが、地域住民の参加や協力を得た訓練の実施はまだできていない。災害に備えた備品などの準備は出来ている。	ホーム単独の訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得た定期的な訓練への取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) コンプライアンスルールを作成し、それに基づきご利用者の尊厳と権利を守る言葉かけや対応に努めている。またファクス送信の際等は個人名を伏字にしている。  (外部評価) 職員は利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。また職員の会議等でも人権意識などについて話し合いを行い、歯磨きやトイレの誘導等も個人に合わせたさりげないケアで支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者のその時々思い(言葉)を受け止め、願いや要望を少しでも支援出来るよう働きかけている。また言葉に出来ないご利用者に対しては、その表情や視線、仕草等から思いを推察している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者お一人お一人のペースや思いをくみ取りながら希望の聞き取りや、日々の過ごし方の工夫している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類に関しては職員が用意した物を着て頂く事が多い。整容はご自分で出来る方は見守り、出来ない方には声かけしたり、時に介助している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 台所に立つ事は少ないが食材購入に出かけたり、食器拭きや盛りつけ、メニュー決めを一緒に行っている。また食事時は必ず職員も同席し、おしゃべりを交わしながら場が和むよう心がけている。  (外部評価) 食事が利用者の楽しみの一つになるよう、職員と一緒に献立を考え、買い物にも出かけている。また食事の準備、調理、盛り付け、後片付け等も利用者にも出来る事を手伝ってもらっている。職員は介助の必要な利用者のサポートをしながら、他の利用者とも会話を楽しみながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 同じ食材やメニューが続かないよう献立を変えたり、栄養のバランスも個々の状態に合わせて配慮している。水分摂取はチェック表を用いながら一日の摂取量を把握している。食事量が少ないご利用者に対しては栄養補助食品で補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアが出来ていない。職員の口腔ケアに対する意識も薄い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄のパターンをチェックしながら、それに応じた声かけや支援を行っている。また個々の状態に合わせたオムツの使用方法も適度検討している。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、個別に支援を行っている。自分から言えない人には、自尊心に配慮しながら、時間を見て声かけを行い、昼間はなるべくトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の方にはホットマッサージをして排便を促している。しかし、便秘の原因となる食事や運動の見直しは出来ていない。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々に対して必ず希望を伺ってはいるものの、職員の都合に合わせてしまっている事も多い。入浴時間、方法については（シャワー浴、湯温等）個々の要望を取り入れている。	
			(外部評価) 本人の希望時間に合わせて9時～21時までの間に入浴出来るようにしている。入りたがらない人には言葉かけや対応を工夫するなど、一人ひとりの気持ちや習慣を大切にしながら、なるべく気持ちよく入ってもらえるよう心がけている。ホームでの入浴が困難な場合には、併設のデイサービスの機械浴を利用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜問わず本人の希望を聞きながら休息してもらっている。またご利用者の状態に応じては休憩場所（たたみスペース）を用意し、体を休ませる時間を持つようにしている。その際は体勢、気温等に留意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服薬についての理解が乏しい。往診時、服薬変更時には職員にその旨を伝えている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴の把握に努め、個々に応じた役割（タオルたたみ、見回り、新聞取り）や楽しみ事（買い物、音楽鑑賞）の支援を行っている。外出の機会が減り、気分転換が図れていないご利用者もいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出希望のあるご利用者に対しては行き先、目的を聞きながら買い物やお参りへ出かけている。しかし日常的ではなく、またほとんど外出していない方もいる。施設内の他事業所や玄関、畑などを散歩する機会を設けている。 (外部評価) 本人の希望を聞いて馴染みの美容院や近くの喫茶店等に出かけたり、職員と日々の食材を買いに行ったり一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて支援している。家族との外出も多い。また地域の行事に出かけたり、ホーム周辺の散歩や畑の収穫を楽しんだり、戸外の空気に触れる機会も作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者がお金を持つ、持つ事の意味を理解しながら管理できる方に関しては適時補充して、使う機会も設けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があった時にのみ電話をかけている。手紙に関しては支援出来ていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節ごとに装飾品を変えたり、花を飾ったりしている。また食卓とは別にたたみスペースも設けたり、ソファもおき個々が自由に心地よく過ごせる場所作りもしている。必要以上の刺激がないようテレビの音や、窓の開閉、室温には留意している。</p> <p>(外部評価) 居間は明るく、家具やソファは利用者が過ごしやすいように工夫して配置している。（ユニットごとに違う）また玄関や居間には季節が感じられる飾り付けがされて、テーブルには花が飾られており、家庭的な雰囲気の中で利用者が落ち着ける場所となっている。トイレも多くあり、ドアを赤色に統一して間違えないよう工夫がされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間が広い為、個々が思い思いに過ごせる場所は十分にある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時にはなるべく馴染みの物品を持参してもらうように伝えている。鏡台、タンス、テレビ、写真などを持ち込み、安らげる場所として工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者によっては畳の部屋に布団で過ごす人もいる。また、ベッドは本人の希望に合わせたものを使用している。室内の収納スペースの上に、家庭から持ち込まれたテレビや思い出の調度品等が置かれ、写真や花等も飾られている。使い慣れた筆筒や椅子も持ち込まれており、その人らしい雰囲気のある生活空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレの場所が分からなくなったり、食事をする事が分からなくなったりする中でお一人お一人に応じた環境整備に努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103151
法人名	特定非営利活動法人(NPO)
事業所名	グループホーム 風花
所在地	愛媛県松山市来住町1057-1
自己評価作成日	平成21年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年 7月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域とのつながりを大切に、以前からの交流もあり運営推進会議をきっかけに、更に密なものとなっている。お互いに交流できる場の提供、当事業所を1つの家庭として要望にできる限りお応え頂いている。近所の保育園との交流もあり、とても良い刺激を頂いている。  
 ・食事の内容には、添加物を含まない、自然を大切に料理の提供を心がけている。調味料は、無添加品を選び、カツオ、昆布、煮干などの天然だしを使用する。ご飯には、雑穀を混ぜる。家庭菜園があり、四季折々の野菜や果物の栽培をし、旬な物を味わえるようにしている。  
 ・職員自身のケアの質を向上させる取り組みとして、併設事業所と一緒に委員会を発足して、月に1回勉強会を開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中で利用者の暮らしを支えるために、年に1回ユニット毎に全職員で理念の見直しを行っている。管理者及び職員は理念を共有し実践している。食事は利用者の楽しみの1つで、天然だしにこだわり、畑で採れた新鮮な野菜を使って調理し、調理方法も工夫している。また職員は段階に応じて外部の研修に参加したり、ケア向上委員会等で勉強会を行い、一人ひとりが質の向上に努めている。地域との交流も出来ており、町内会に加入し地域の行事に参加したり、またホームの行事にも参加してもらっている。地域の清掃活動にも参加し地域の一員としての役割も担っている。保育園児との交流や多くのボランティアの訪問があり、利用者も日々の暮らしを楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 風花

(ユニット名) 花(1階)

記入者(管理者)

氏名 長岡 すみ子

評価完了日 21年 6月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 全職員と作り上げ、誰でも確認できるように掲載している。意識付けを図るために朝の申し送り時に読み上げる。理念を基に勤務した意識の確認として勤務終了時に申し送り記録を報告している。</p> <p>(外部評価) 利用者が地域の中で安心して暮らせるように、毎年全職員で今までの理念を見直し、話し合いを行って、それぞれユニット毎の理念を作っている。理念は具体的でわかりやすい言葉で表されている。職員は毎日言葉に出したり、黙読したりして管理者と理念を共有し、利用者の生活支援に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事への参加、地域へ事業所行事への参加呼びかけ、日常のかかわりとしてあいさつの徹底を心がけている。又、町内会、寿会へ参加し交流の場が持つ関係ができつつある。</p> <p>(外部評価) ホームは町内会に入り、地域の行事(祭り、運動会、老人会、清掃活動等)に参加したり、ホームの行事にも参加してもらい相互関係が成り立っている。近くの保育園児との交流やボランティアの訪問もあり、利用者と地域の方の交流は深まってきている。また有償ボランティアの方に畑や日常生活を手伝ってもらっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の講習会などで認知症への理解を深めていったり地域の方から相談を受けるなど、相談窓口となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 定例通り2ヶ月に1回開催をしている。参加者は地域の役員様から住民の方々、市職員や民生委員、地域性として近所の保育園の先生方が参加している。例年では事業所からの報告や連絡事項が主になっていたが、今年度からは、事業所からの報告を行なった後に、地域での活動の紹介や行政からの報告、活動内容を紹介するように形をとっている。</p> <p>(外部評価) 会議には、利用者や家族、地域住民（町内会会長、民生委員、老人会、保育園等）や市の職員等多くの参加があり、ホームの報告ばかりでなく、それぞれの方の立場から意見や要望などを聞いて、活発な意見交換が行われている。具体的な課題について話し合いを行い、サービスの向上につなげている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市職員の研修現場とし、受け入れながら御利用者との交流の場も設けている。地域包括とGH交流会を企画して地域でのGHの交流の場を設けている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター主催のグループホームの交流会や、セミナー等に参加し、市職員の研修の受け入れも行っている。また市および包括センター職員と運営会議を通して話しやすい関係づくりができており、具体的な相談に対応してもらうなど連携を深めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 以前に勉強をする時間を作ったが、時間が経過するとともに忘れていく。新人の職員が増えたことにより全体の理解には程遠い。現状では身体拘束はしない意識はあり、玄関の施錠をしないなどの基本的なことは日頃から伝えており、ご家族の理解を得る為にも運営推進会議でも十分話し合いの場面を持っている。</p> <p>(外部評価) 日中は玄関及び居間等に施錠しないで、利用者の安全を確保しながら抑圧感のない自由な暮らしを支えている。玄関はセンサーで対応している。身体拘束の弊害などについて管理者及び職員は理解しており、会議等でも勉強会を行い、身体拘束をしないケアを実践している。</p>	利用者の自由な暮らしを支えるためには、利用者一人ひとりに対して個別の対応が望まれる。身体拘束に関する勉強会を継続して徹底理解を図るとともに、ケアサービスの質の向上に活かすことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 以前に勉強をする時間を作ったが、時間が経過するとともに忘れていく。新人の職員が増えたことにより全体の理解には程遠い。虐待と言われると身体的な暴力を思い浮かべ、放置放任などネグレクトに関する内容を説明できる職員は数少ないのが現状である。勉強会でもう1度見直す予定にしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前に勉強をする時間を作ったが、時間が経過するとともに忘れていく。新人の職員が増えたことにより全体の理解には程遠い。日常的に尊厳を守る、権利があると伝え合っているが、それを理解してうまく活用はできない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 丁寧に説明している。特に、利用料金、起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携など詳しく説明し、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) クレーム報告書の作成、家族会での意見の場、アンケートを実施している。上がってきた内容に関しては真摯に受け止め職員に伝え、改善に努めている。  (外部評価) 運営推進会議や家族会等、利用者や家族から意見を出してもらう機会を作っている。また日々の暮らしの中で利用者の思いを聞き出し、家族の訪問時にも要望などを聞いている。出された意見等は職員で話し合いケアに反映させている。重要事項説明書に、ホーム内及び外部の苦情申立先を記載している。	今までホーム側が開催していた家族会を、今年から家族が中心となって開くため、家族からの要望や意見が多く出されることが予測され、サービスに反映させる具体的な取り組みが期待される。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 半年に1回の面談、その他必要に応じて個別に面談を行なう。日常の中でもミーティングの際に、情報の提供や意見のできる場面作りを心がけ運営に反映させている。</p> <p>(外部評価) ミーティングや勉強会、管理者との面談等で、日頃から職員からの要望や意見を十分聞き出すよう心がけている。出された意見等については、話し合って運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 各職員に役割を持たせ、その実績を評価しベースアップにつなげたり、年2回の人事考課では、職員の意思の確認を行ない、又、職員が向上心を持って働けるように働きかけている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 年間計画を立てて職員一人一人のレベルに合わせた、内部研修、外部研修を行ない、又、OJTを使いその都度振り返りができる仕組みを作っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) GH連絡協議会への参加で他事業所との関係を深めたり、相互研修やGHの見学受入れなど質の向上を目指し取り組んでいる。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前の面談で、利用者の希望、要望をしっかりと聴き取り、又、不安を軽減する為におためしデイやおためしショートを行いながら安心できる環境にしていけるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 居宅からの入居の場合には担当ケアマネより、施設からの転居の場合には事業所の担当者より、本人の情報提供表（フェイスシート）を確認し、家族の不安や要望を聴き取りながら入居に至っている。デイやショートを受け入れ、当事業所からは、必要に応じて医療従事者も介入し、対応している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 居宅からの入居の場合には担当ケアマネより、施設からの転居の場合には事業所の担当者より、本人の情報提供表（フェイスシート）を確認しながら、本人、家族のニーズを受け止め最も良い選択ができるようにしている。当事業所からは、必要に応じて医療従事者も介入し、対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の想いに注目して、日々の関わりを行なう努力をしている。日々の暮らしの中で本人と職員が共同できる最も多い場として炊事、洗濯などの家事支援が中心となっている。身近な『できること』を見極め、職員は利用者と相対しながら関わっていく中でより深く御利用者を知る努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族の関係が良好な方と、疎遠になりがちの方がいる。今までの作り上げてきた関係性で、否定することはできないが、可能な限り関わりを持って頂けるようにしている。1ヶ月に1度、管理者からの手紙を添えて経過記録を元に本人の状況の報告や相談をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居時に、本人や家族と面談して馴染みの関係を聴き取りしている。本人や家族の希望、必要に応じて美容院へ行ったり、馴染みの店へ出向き洋服を購入したりと、生活習慣を大切にして支援している。  (外部評価) 併設のデイサービスを利用している友人が訪ねてきて会話を楽しんだり、ホームからデイサービスに遊びに行くこともある。また馴染みの美容院や神社等のお参りに行ったり、家族の訪問も多いことから一緒に食事したり外出したりするなど、職員が一人ひとりのこれまでの暮らしの把握に努め、生活習慣を尊重して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者1人1人の価値観や、人との付き合い方を、日常の暮らしの中から、見出す努力をしている。発見や気づきがあった時には、申し送りを通して情報を共有している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 本人、家族の要望に応じて、柔軟な相談、助言ができるような体制をとっている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、言葉や表情を聴き取り、センター方式を基にした用紙に記録している。職員の意識は記録を基に、想いを汲み取る作業を、地道に行なっている。	
			(外部評価) 日々の暮らしの中で本人に思いや過ごし方の希望を聞いたり、行動や表情からも真意を推し測っている。家族の訪問時には、利用者の希望や家族の願いなど情報を得るようにしている。センター方式を利用して積極的な把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の聴き取りや事業所で暮らしていく中での出来事などを、家族に伝える際に出てくる、本人に関する思い出話を通して、本人が暮らしてきた状況の把握に努めている。知ることができた情報は、記録に残して共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人記録や排泄チェック表を用いて、過ごし方や心身の状態の把握に努めている。だが、本人の有する、できる力とわかる力に該当する記録、それに沿った意識で個人記録を、記入しているとは言えない。周知徹底が必要。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 更新期間前に、前回のプランの評価を行ない、再アセスメントを行なっている。本人や家族からの聴き取りを踏まえ、職員や関係者より、適切なアドバイスを反映させ、計画表の立案につなげている。  (外部評価) 本人がどう暮らしたいのかを第一に考えて、思いを聞いたり家族の希望も採り入れて、関係者が話し合っただけでその人に合った具体的な介護計画を作成している。定期的な見直しや評価のほか、家族等の要望や状況の変化に応じて介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式を基にした個人記録を使用している。記録の内容は必然的に実践、結果、気づきの記載が求められるようになってきている。知りえた情報は、申し送りや日々の伝達事項の際に織り交ぜながら、情報を共有できるように意識付けを行なっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の、その時の要望や希望に応じて、職員の個々の判断や経験が生かせるようミーティングで取り上げたり、家族へ相談を持ちかけ解決へとつながるようにしている。その他、併設事業所や契約している医療関係者からアドバイスの提供を促している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域包括や民生委員、町内会などの関係は運営推進会議等を通して深まり、意見交換できている。町内の公民館の活動に参加できるように支援している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>入居時の基本情報の聴き取りの際に、過去の病歴と一緒にか かりつけ医の確認を行なっている。当事業所としては、これ までに築いてきた医療機関との関係性を最も大切にして、適 切な医療が受けられるようにしている。当事業所で定められ た医師はいるが、本人のニーズに合わせた医療が提供でき るように、専門科への紹介も行なう。</p> <p>(外部評価)</p> <p>協力医療機関がかかりつけ医となっている利用者が多 いが、本人及び家族が希望する医療機関で受診しても らう場合もある。2週間に1回かかりつけ医の往診が あり、管理者及び職員は利用者の情報をよく把握して いる。また緊急の場合には24時間の対応ができるよ うな体制になっている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>毎週、訪問看護師の健康チェックを実施している。健 康チェックの際には利用者の現在の状態をお互いが報 告する他に、今後考えられる身体的な状態の変化や医 師との連携のあり方の相談を随時行なっているが、責 任者が主となっており、職員の介入が少ない。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には、担当主治医により、入院先の担当医へ、紹介状 の作成、情報の提供が行なわれるようになっており、最善か つ早期の治療につなげている。入院時には、当事業所との連 絡を密にして、互いに情報を確認している。退院時には、ケ アカンファレンスとして、当事業者からも医療従事者の参加 を促し、最善の退院を心がけている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>重度化、終末期の過ごし方を綴った同意書を作成しており、 入居時には本人、家族への説明を行ない、同意を得た状態 での入居となっている。実際に、そのような状態に直面した際 には、本人、家族と医師、医療従事者、管理者とが話し合 う機会を設け、最善の終末期を迎えられるように本人や家族 の希望に合わせた、支援を心かける。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ホームとして、看取りの必要性が生じた場合における 対応指針を定め、入居時に本人及び家族に説明を行 いつている。まだホームでの看取りの経験はないが、 本人や家族が希望しホームでの看取りが出来る状態 であれば、受け入れは可能で、日頃から医療機関と話し 合いをしている。</p>	<p>利用者が、終末期をどう過ごしたいかが大切であり、 医療との連携や家族と職員がチームで支援する必要が ある。他の利用者への影響も含め、職員の終末期にお けるケアの質の向上を期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に1回の応急手当、救急蘇生法などを習得できるようにしている。緊急マニュアルを作り、マニュアルに従った対応ができるように伝えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、利用者と共に避難訓練を行なっている。地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼びかけている。  (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施し防災マニュアルも作成している。地域に協力をお願い、地域の自主防災会の連絡網もできているが、地域住民の参加や協力を得た訓練の実施はまだできていない。災害に備えた備品などの準備は出来ている。	ホーム単独の訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得た定期的な訓練への取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 介護理念、コンプライアンスルールの中で、年長者に対する尊厳、敬意を払うような心掛けをしながら、利用者が自己決定できるような言葉掛けに努めている。  (外部評価) 職員は利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。また職員の会議等でも人権意識などについて話し合いを行い、歯磨きやトイレの誘導等も個人に合わせたさりげないケアで支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 見守ることの大切さ、自己決定や選択ができる声掛けや言葉掛けを意識しているが、なかなか難しい様子で、手出ししている場面が多い。コンプライアンスルールと同様に、水準を決め、実行できるようにしてはならない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一方的な決めつけはしないで、選択できるような場面を作る。自己決定できるように心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 今までの、生活のあり方を確認しながら、身だしなみの配慮は行なっている。意思疎通が困難な方は、家族からの聴き取りを踏まえて、本人本位を心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 買い物から調理、盛り付け配膳など利用者の能力に応じて、家事参加を促し、活躍の場面の展開につなげている。又、畑で取れた野菜を、その場で調理して食事を1日の大切な活動としている。  (外部評価) 食事が利用者の楽しみの一つになるよう、職員と一緒に献立を考え、買い物にも出かけている。また食事の準備、調理、盛り付け、後片付け等も利用者にも出来る事を手伝ってもらっている。職員は介助に必要な利用者のサポートをしながら、他の利用者とも会話を楽しみながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日のリーダーを決め、利用者個々の身体面、精神面の把握に努め、他職員への指示、共同につなげている。その中で、栄養バランス（食事量）や水分バランス（水分量）の把握にも意識を置き、利用者の状態や力、習慣に合わせた支援を行なえるように心がけている。全職員が、意識をして取り組めるように、習慣付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後には、利用者1人1人に歯磨きを促し、必要に応じた口腔ケア、口腔マッサージを心掛け嚥下障害による肺炎の防止に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄チェック表を記録して、排泄パターンの把握に努めている。1日の中で、排泄のタイミングや定時毎の排泄の誘導は、利用者それぞれに合わせて行なっている。紙パンツ、パットの適正について常に話し合い、見直しが出来ている。	
			<p>(外部評価)</p> 職員は利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、個別に支援を行っている。自分から言えない人には、自尊心に配慮しながら、時間を見て声かけを行い、昼間はなるべくトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 排泄パターンを記録して、便秘の状態は確認している。便秘予防のため野菜を多く摂り、水分摂取に気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 利用者の意思があり、はっきりした希望がある場合にはそれに沿えるよう、準備していく。意思疎通の困難な方に対しては、今までの生活のあり方や家族からの聴き取りを踏まえ、利用者本位を心がけている。だが、介助が必要な方への支援は、職員の層が厚い時間帯も考慮しての支援となっている。	
			<p>(外部評価)</p> 本人の希望時間に合わせて9時～21時までの間に入浴出来るようにしている。入りたがらない人には言葉かけや対応を工夫するなど、一人ひとりの気持ちや習慣を大切にしながら、なるべく気持ちよく入ってもらえるよう心がけている。ホームでの入浴が困難な場合には、併設のデイサービスの機械浴を利用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> その時の、利用者の様子、言葉、仕草で見極めるよう支援している。なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるような支援を行なっている。又、一人一人の体調や表情などを考慮しながらゆっくり休息がとれるような支援も行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方を変更した時、又、本人の状態に変化があったときなど、詳細をスタッフに伝えている。服薬の日時や氏名、きちんと飲んでいるかどうかの確認を必ず行なっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で、力の発揮ができるようにし、感謝の言葉を伝えている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の習慣や楽しみごとを聴き取りながら、喫茶店、散歩、お参り、外食、理美容など出かけられるよう支援している。  (外部評価) 本人の希望を聞いて馴染みの美容院や近くの喫茶店等に出かけたり、職員と日々の食材を買いに行ったり一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて支援している。家族との外出も多い。また地域の行事に出かけたり、ホーム周辺の散歩や畑の収穫を楽しんだり、戸外の空気に触れる機会も作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 可能な利用者に関り、自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につなげていくため、家族の同意のもと金銭管理を自分行なっている。金銭管理の重要性は理解できていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望があったり、家族の要望や職員が日々の暮らしの中で必要と判断すれば利用者や相談して、電話や手紙のやり取りなどの柔軟な支援ができるようにしている。利用者が困ったり、声を聴きたくなった場合に電話をすることが多い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節感を出す為に、季節の花を飾ったりカレンダーを掲示して月日を確認できるようにしている。共用の空間で過ごす場合には、利用者の表情や仕草を確認する意識を持ち、不快感を感じさせないように心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間は明るく、家具やソファは利用者が過ごしやすいように工夫して配置している。（ユニットごとに違う）また玄関や居間には季節が感じられる飾り付けがされて、テーブルには花が飾られており、家庭的な雰囲気の中で利用者が落ち着ける場所となっている。トイレも多くあり、ドアを赤色に統一して間違えないよう工夫がされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>特徴ある広い建物で、椅子を移動に支障をきたさないように配置している。好きな場所で好きなように過ごせるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に、部屋の設えは本人の想いに沿うように。と、説明をしている。間取りは同じだが、部屋にある物、雰囲気は全て異なり、自由な空間となっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者によっては畳の部屋に布団で過ごす人もいる。また、ベッドは本人の希望に合わせたものを使用している。室内の収納スペースの上に、家庭から持ち込まれたテレビや思い出の調度品等が置かれ、写真や花等も飾られている。使い慣れた筆筒や椅子も持ち込まれており、その人らしい雰囲気のある生活空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>排泄に関してトイレの扉は赤を採用。遠くからでも、近くでもはっきり居室が分かるように大きな表札を使用。畳みのスペースを設け、和室での生活ができる方への配慮。利用者の背丈に合わせたテーブルでの食事を目指し、テーブルの足をカット。</p>	